



つばさ ぼくたちに翼があったころ

シエム＝トヴ作 おかもと 樋口範子訳 福音館書店
岡本よしろう絵

走ることにかけては、ぼくはだれにも負けなかった。「か
けこみ所」と呼ばれる孤児院で、脚を折られる前までは。
「足なえの盗っ人」になったぼくを、姉さんは別の孤児院
に入所させた。すばらしいと評判の「孤児たちの家」。
そこでぼくは、かけがえのない仲間と新たな夢に出会う。
「君には持つて生まれた記者魂がある」と教えてくれたのは、ドクト
ルことコルチャック先生だった。
少年やネクの目を通して、コルチャック先生と子どもたちの輝くよ
うな日々を描いた物語。

